

2010年6月2日

## 産学連携にて「徳」を思う

群馬大学 小林春夫

1997年に私が実績・予算等なにもない“丸腰”の状態で助教授として群馬大学に着任したとき、日本では産学連携が奨励されはじめていた。群馬大学工学部にも半導体・エレクトロニクス・メーカーの方々に出入りをいただきつつあった。その一つのご縁で、大手メーカーOBの方のご紹介で一緒に東京方面の企業を訪問した帰りのことを今でもよく覚えている。群馬大学工学部は桐生市にあり、東京からは浅草からの特急が便利である。帰りは夜になり、浅草にて夕食をとったときに、著名な店を知っているとのでそこに一緒に行くことになった。座敷に通された際に、「あなたが上座に座れ。自分はもう第一線を退いたので、年齢はあなたが随分若いですが社会はあなたの方を信用する」と言われたのが非常に印象に残っている。のちに研究室の大学院の学生が、その方と勤務されていた会社を訪問した際に、訪問する職場毎に多くの人たちから敬意をもって挨拶を受けていたので驚いたとの話をしている。これらは随分前のことであるが、「井戸を掘った人の恩を忘れるな」の言葉とともに記憶している。

いつごろか、孫子の兵法書に親しむようになっていく。極めて合理的な考え方で生きていく上での多くのヒントが得られる。中国からの留学生の孫清波君は孫子（孫武）の子孫である可能性が高いという。私が孫子が好きだという話をすると、御父上が中国から立派な書物を送ってくれた。

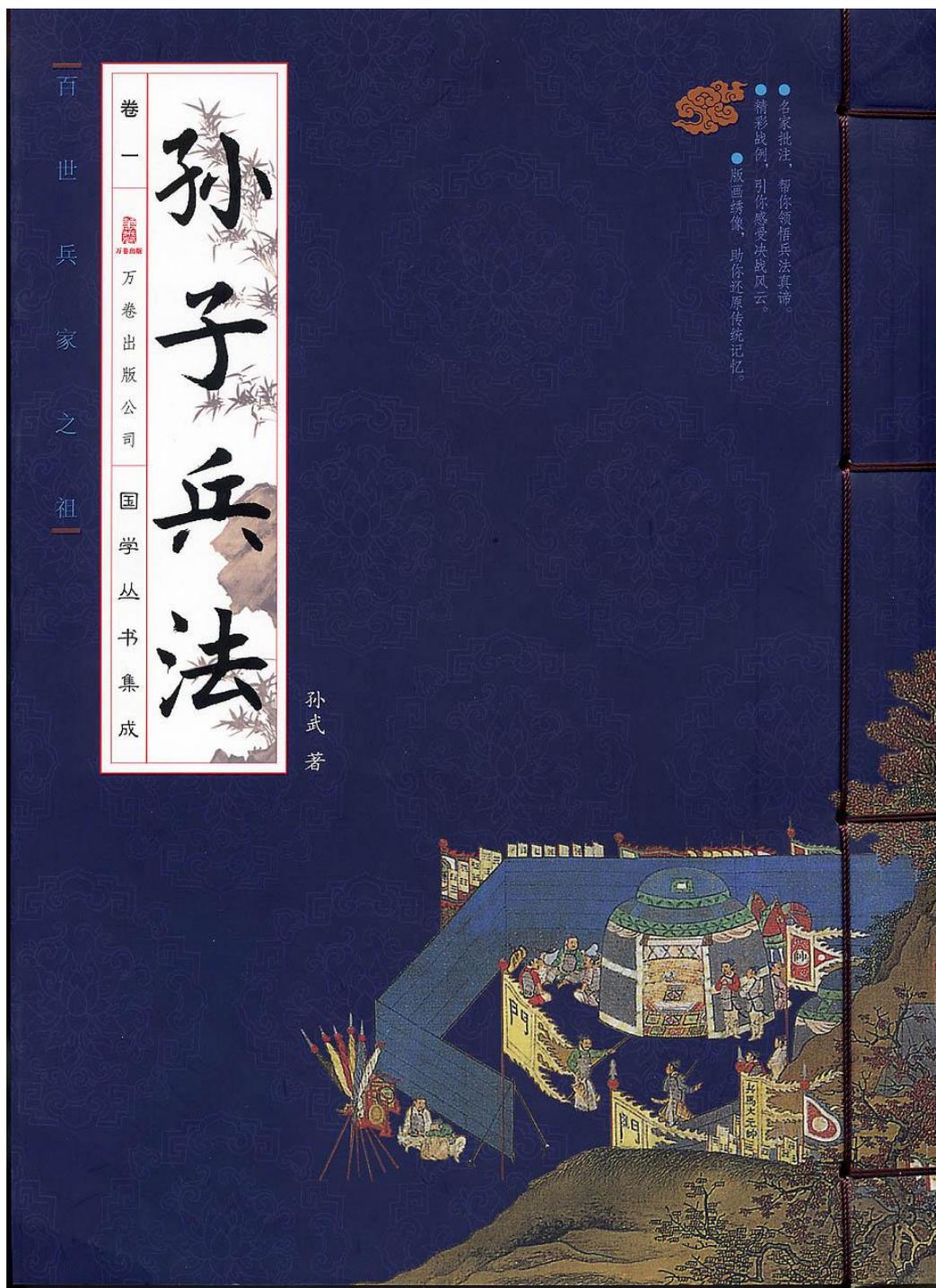
一方、「論語」は道徳を説教されているようで、はじめは敬遠していた。しかし孔子廟をもつ足利学校（足利市）や「論語と算盤（そろばん）」で知られる渋沢栄一氏の記念館（深谷市）を訪れ、時々論語に触れることがある。そこで気がついたのは、論語では実に厳しいことを言っている、心に突き刺さるものがある、単に道徳を言っているのではないということである。論語ではその中で一つには「徳を持って、徳のある行為をせよ」と言っていると思う。

歴史書を読むと 下剋上の戦国時代に上杉謙信公は「義」を唱えてそれに基づいた行為をしたという。上杉家は、越後から米沢に移り、上杉鷹上公等の名君を出して幕末まで存続した。これは謙信公の「義」すなわち「徳」のある行為が人々の心を打ち、長年の間には苦難のときがあっても人々から支持されたので存続をしたのだと評する歴史家もいる。

日々いくつもの失敗を繰り返しながら、「徳を持って、徳のある行為をせよ」の言葉をもとに自省している。

孫清波君の御父上からの「孫子の兵法書」。

ナポレオンの「各個撃破」の戦法は孫子から学んだとの説もある。



## 孙子兵法

### 计①篇第一

曹操曰：计者，选将、量敌、度地、料卒、远近、险易，计于庙堂也。○李筌曰：计者，兵之上也。《太一遁甲》先以计，神加德宫，以断主客成败。故孙子论兵，亦以计为篇首。○杜牧曰：计，算也。曰：计算何事？曰：下之五事，所谓道、大、地、将、法也。于庙堂之上，先以彼我之五事计算优劣，然后定胜负；胜负既定，然后兴师动众。用兵之道，莫先此五事，故著为篇首耳。○王皙曰：计者，谓计主将、天地、法令、兵众、士卒、赏罚也。○张预曰：管子曰：「计先定于内，而后兵出境。」故用兵之道，以计为首也。或曰：兵贵临敌制宜，曹公谓计于庙堂者，何也？曰：将之贤愚，敌之强弱，地之远近，兵之众寡，安得不先计之？及乎两军相临，变动相应，则在于将之所裁，非可以逾度也。

### 原文

孙子曰：兵②者，国之大事③，杜牧曰：《传》曰：「国之大事，在祀与戎。」○张预曰：国之安危在兵。故讲武练兵，实先务也。死生之地，存亡之道，不可不察④也。李筌曰：兵者凶器，死生存亡系于此矣，是以重之，恐人轻行者也。○杜牧曰：国之存亡，人之死生，皆由于兵，故须审、察也。○贾林曰：地，犹所也，亦谓陈师、振旅、战阵之地。得其利则生，失其便则死，故曰死生之地。道者，权机立胜之道。得之则存，失之则亡，故曰不可不察也，《书》曰：「有存道者，辅而固之；有亡道者，推而亡之。」○梅尧臣曰：地有死生之势，战有存亡之道。○王皙曰：兵举，则死生存亡系之。○张预曰：民之死生兆于此，则国之存亡见于彼。然死生曰地，存亡曰道者，以死生在胜负之地，而存亡系得失之道也，得不重慎审察乎？

## 孙子兵法



## 孙子兵法